

Q:ところで、VAWW-NET Japan は何?

A:正式には「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク (Violence Against Women in War-Network Japan) と言います。パウネット・ジャパンと呼んで (読んで) ください。

Q:いつできたの?

A:1997年秋に東京で、世界20カ国から40人の海外参加者を招いて、「戦争と女性への暴力」国際会議が行われました。会議直後に国際的なVAWW-NETが生まれて、世界各地で同じ問題に取り組む女性たちの、国境を越えた連帯行動が始まったのです。

VAWW-NET Japan は、この国際会議の日本の実行委員有志を中心に、1998年6月に正式に発足しました。

Q:どんな目的で活動しているの?

A:「戦争と女性への暴力」国際会議で採択された「戦時・武力紛争下の女性への暴力をなくすために、『女性の人権』の視点に立って、平和を創る役割を担い、世界の非軍事化をめざす (東京宣言)」ことを目的に活動しています。

Q:具体的にはどんなテーマに取り組んでいるの?

A:次の三つのテーマがあります。

1. 日本軍による奴隷制被害者の正義と尊厳の回復を求め、日本の戦争・戦後責任をはたす
2. 沖縄から基地を撤去させ、日米新ガイドラインの撤回を求める
3. 世界各地の戦時・武力紛争下の女性への暴力の実態と背景を知り、被害者の痛みを分かち合い、暴力をなくすための連帯行動をとる

Q:男性も入会できるの?

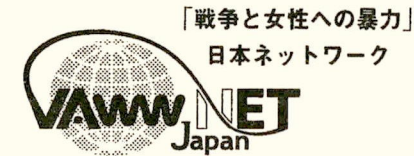
A:もちろんです。現在会員は約200人ですが、そのうちの一割が男性です。

Q:会員になるとどんな利点があるの?

A:EメールやFAX、郵送でVAWW-NET Japan ニュースが届きます。学習会やシンポジウムなどの案内も届きます。あなたからの情報や活動報告の発信、行動の呼びかけができます。

★VAWW-NET Japan は会員一人ひとりでつくる、行動するネットワークです。
あなたからの入会申し込みを待っています!!
年会費12,000円は、一ヵ月1,000円の分納でもOKです。

★「女性国際戦犯法廷」早わかり Q&A ★



1999年6月1日発行

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10

FAX 03-5337-4088

e-mail: vaww-net-japan@jca.ax.apc.org

Q:「女性国際戦犯法廷」って何?

A:アジア太平洋戦争中に日本軍が犯した「慰安婦」制度など女性に対する戦争犯罪の加害者の刑事責任を問うために、女性を中心に民間で開く国際的な「法廷」です。

Q:よくある「模擬裁判」とどこが違うの?

A:理想的な裁判をやって見せるのではなく、国際人権法、国際人道法、国際刑法の国際的に著名な専門家を裁判官や検事として迎え、実際の刑事裁判になるべく近い法廷を目指しています。

Q:なぜ開くの?

A:性暴力の被害者にとっては、自分が悪かったのではない、自分に起きたことは本来は決してあってはならないことで、自分はその被害者である、と自他ともに認められることが不可欠です。日本軍性奴隷制 (「慰安婦」制度) では、被害者がこのように「悪いのは自分ではなく、日本軍・兵だったことを証明してほしい」と叫んでいるにもかかわらず、日本政府も裁判所も聞こうとしません。

1994年に韓国の被害者が来日して告訴しようとしたが、東京地検は門前払いで彼女たちの告訴状の受け取りさえ拒否しました。

1998年、常設の戦犯法廷として国際刑事裁判所 (ICC) を設立することがローマ会議で合意されましたが、設立には60か国の批准が必要ですし、設立されても過去の犯罪は訴追の対象になりません。それで、自分たちで民間の法廷を開くことにしたわけです。

Q:どんな意味があるの?

A:被害女性の尊厳を回復することと、女性に対する戦争犯罪の再発防止が目的です。今も世界各地で武力紛争が繰り返され、男性たちは「戦争だから (だったから)」を理由に、武器として、戦略・戦利品の一つとして、また自分の欲望を満たすために、強かんや性奴隷など、女性や子どもたちに暴力をふるい続けています。彼等の罪を不問にすることは、次の犯罪を容認することになるわけで、こうした女性への戦争犯罪「不処罰」に歯止めをかけて、戦争と女性への暴力をなくそうというわけです。